

FWU

MAGAZINE

福岡女子大学広報

No.124 | 2025

特集

学生視点を大切に——
学生と共に歩むキャリアサポート

My life

イオン九州株式会社
執行役員 熊本・筑後事業部長

武富 恭子さん

●つなぐリレーエッセイ Vol.018

20歳は原点

20 years old as a starting point

profile

深町 朋子 Fukamachi Tomoko

国際文理学部 国際教養学科 教授



英国留学中の衆にて（本人右端）

毎回、福岡女子大学に縁のある方々を紹介します。

あの人の20歳の頃、どんなことを考え、
どんなことに迷い、どんな選択をしてきたのか
若き日々の原点となるライフストーリー

1988年九州大学法学部入学。1998年に同大学院法学
研究科博士後期課程を単位取得退学して、福岡国際大
学国際コミュニケーション学部（当時）の専任講師に。
福岡女子大学には2011年の国際文理学部開設時に准
教授として着任し、2021年から教授。専門は国際法。

私が大学に入学した頃には、母校の高
校の吹奏楽部から九州大学に入った人は
九大フィルハーモニーオーケストラに入
る、という流れのようなものがあつたこ
ともあり、オーケストラ中心の大学生生活
が、ごく自然に始まりました。週3日の
練習日以外も個人練習のためにサークル
棟に通い、県内外での合宿も年に数回あ
るというハードさでしたが、福岡と北九
州での定期演奏会や小学校での音楽教室
など、たくさんの方の演奏機会があり、学部
や学年を超えた深い関わりも築くことが
できて、毎日が充実していました。

そんなオーケストラ・ファーストだっ
た私を、ある種の強引さで海外へと連れ
出してくれたのが、大学3年次に所属し
たゼミでした。授業外の自主ゼミに授業
の何倍もの時間を費やすようなゼミで、
抜群の結束力がありました。しかも先生
が若手かつ大の旅好きということで、皆
で団体価格の航空券（まだ格安航空券の
販売は一般的ではなかった頃です）を手
に入れて、バリ島への貧乏ゼミ旅行を取
行したのです。

バブルの最中で、バリは日本人に大人
気のビーチリゾートでしたが、私たちは
高地の村のゲストハウスに泊まって、寺
院に奉納される伝統舞踊を見学したり、
露店の串焼きや揚げ菓子を食べ歩いた
り。ちょっとしたハプニングも続出し
た。本当に、あの年齢、あの顔ぶれだか
らこそ旅だったと思います。

また、同じ年に米国に行く機会に恵ま
れたのも、ゼミの夏休み課題として新聞

社の懸賞論文に応募した（させられた）
からでした。運よく入賞して行くことの
できた米国研修は、一緒に行った学生た
ちのインパクトが思いのほか大きい旅で
した。ほとんどが東京と大阪の大学生
だった彼らとの出会いは、福岡の高校か
ら福岡の大学に進んで、それなりに大人
になった気になっていた自分の世界の狭さ、考
えの浅さ、そして何より不勉強さを、抽
象的な観念としてではなく具体的な形
で、はつきり自覚させるものだったのだ
す。私にとって一つの転機となった経験
でした。

当時は、今よりもずっと専業主婦の女
性が多い時代でしたが、私はたとえ結婚
しても子どもをもっても働き続けたい、
ということをかなり明確に自覚してい
て、卒業後のキャリアを考えると、
それが叶う職業かという視点は常に持っ
ていたように思います。大学入学時に考
えていたのは地方公務員で、第二外国語
も「福岡で役立ちそう」と中国語を選ん
だくらいです。けれどもその後、教養課
程と専門課程で国際法を学んだことで、
この分野の研究者になりたいという気持
ちが芽生え、大学院進学に方向転換しま
した。国際法にはフランス語文献の読解
が不可欠なので、独習に苦勞する羽目に
はなりましたが…。

ともあれ、英国への留学も含めて大学
院に6年通い、二十代最後の年に前任教
院に就職して以来、産休・育休や本学への
異動を挟みながらも、大学教員としてな
んとか働き続けることができています。

思い出の曲

ブラームス「交響曲第4番」

九大フィルに入った時に、先輩方が定期演奏会に向けて取り組んで
いらした曲で、1年生はミニスコア（総譜）を持って指揮者リハーサ
ルを見学するのが習わしでした。第1楽章のヴァイオリンの入りや、
第4楽章の神々しいトロンボーンなど、今でも耳にすると、当時の
合奏練習の緊張感や、目の前で音楽が作り上げられていく様子、そ
して大学生になったばかりの自分が思い出されます。自身が演奏会
に出るようになって吹いた曲を聴いても、そんな感じにはならないの
が不思議です。

周囲の人と幸運に恵まれたことにとても
感謝しています。
オーケストラに関しては、上の子が生
まれた三十代半ばから、奏者としてどこ
ろか聴き手としてすら全く縁遠い生活が
長く続きました。大学時代にあんなに打
ち込んでいたのは何だったのだろうと思
うことも、正直ありました。ですが、数
年前に福岡女子大学フィルハーモニー
オーケストラの顧問になったのをきっか
けに、演奏側ではありませんが、オーケ
ストラや文化活動に関わる機会を学内外
でいただくことが増え、今になってのつ
ながりに少し驚いています。マイ楽器の
クラリネットは福女大フィルに使っても
らって現役です。私もいつかは練習を再
開できたらいいなと、密かに願っていま
す。



FUKUOKA WOMEN'S
UNIVERSITY

公立大学法人
福岡女子大学

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1
Tel.092-661-2411（代表） Fax.092-661-2420
<http://www.fwu.ac.jp/>



学生支援センター
副センター長
片桐 義範

学生支援センター
キャリア支援グループ
川崎 由布

環境科学科 2年
福岡県立伝習館高校出身
高桑 葵さん

国際教養学科 2年
鹿児島県立鹿児島中央高校出身
吉村 亜希子さん

学生支援センター
キャリア支援グループ
深堀 珠央

特集

Special
feature

学生視点大切に 学生と共に歩むキャリアサポート

Contents

特集

学生視点を大切に ――

学生と共に歩むキャリアサポート 2-5

研究室紹介 国際教養学科 塚野 慧星 6

My life

イオン九州株式会社 執行役員 熊本・筑後事業部長

武富 恭子さん 7-9

社会で羽ばたくなでしこたち

九州産業大学 地域共創学部 助教

藤野 夏海さん 10

FWU TOPICS 11-13

成果報告 / 人事消息 14



学生委員

教職員から構成される学内委員会・部会に所属し、教職員と共に大学運営の一端を担う学生のことです。各委員会・部会での活動を通して、学生一人ひとりのリーダーシップを開発することを目的としています。活動は大きく分けて委員会・部会を越えた全体セッション（年数回）と各委員会・部会での活動があります。

2024年度は6つ、2025年度は8つの委員会・部会でそれぞれ学生が活躍しています。

本学ウェブサイトでも吉村さんの活動を紹介しています。



学生が社会へ羽ばたく力を身につけるため、キャリア支援グループは、就職に関するイベントや進路相談をはじめ、一人一人に向き合ったサポートを行っています。学生視点でのサポートとなるよう学生委員を募集し、学生にイベントの企画・運営などに関わってもらっています。2024年度の学生委員、吉村亜希子さんと、2025年度の学生委員、高桑葵さんに話を聞きました。

2025年8月25日撮影・取材



福岡女子大学広報
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY
MAGAZINE
No.124 2025

まずはやってみる!!
自ら動くことで、次のステップへ

片桐…キャリア支援グループの学生委員の活動に参加しようと思った理由を教えてください。

吉村…入学してすぐの新生オリエンテーションで学生委員の方が様々な課題を乗り越えながら、1つの企画を作り上げてきた話を生き生きと語って下さり、カッコいいなと感じました。また、いただいた資料には学生委員を経験した皆さんが、活動を通して成長できたと書かれていました。私は今まで人前に立つことはあまりありませんでしたが、それを見て「やってみたい」と思い立ちました。

片桐…実際に学生委員になってみて、いかがでしたか？

吉村…共に活動してくれる「学生リポーター」を募るポスターを作成したり、企業セミナーで人事担当の方や卒業生の方にインタビューしたことを文章にまとめて、デジ



学生委員が作成した募集ポスター



吉村さんと学生リポーターとの企画準備の様子

タルパンフレット形式で全学へ発信しました。デジタルパンフレットの作成にあたっては、学生リポーターと相談し、改善を重ね、納得のいくものができたと思います。自分から動くことで、他の人を巻き込んで互いに学び合えるし、自分自身の次のステップにつながる実感をえました。

片桐…キャリア支援グループの職員とはどのようなやり取りをしましたか？

吉村…学生委員は私一人だったので、学生リポーターが集まるまで、職員の方に多くのサポートをしてもらいました。

深堀…「吉村さんは最初は不安だろうな」と私たち職員も感じていました。ただ面白い企画だったので、その企画に賛同してくれる仲間はずいとい信じていました。学生リポーターが6人集まり、そこからは和



も必要じゃない？」と具体化していく感じで進めていきました。

片桐…キャリア支援グループの学生委員として今経験していることは、就活に活かせるのですか？

高桑…共に活動してくれるメンバーを募集する時にインターネット上で応募フォームを作る方法など、役に立つことを教えていただきました。職員の方と一対一で相談でき、積極的になれた感じがします。また、職員の方と接するうちに、伝える力も身についたと感じています。就活の面接で、自分のアピールポイントをうまく伝えることができそうです。

学生の不安に寄り添った
キャリア支援グループのサポート

片桐…これから就活が始まっていきますが、大学側に「こういうサポートがあったらいいな」という要望はありますか？
高桑…個人的な相談にも応じてくださるし、満足しています。ただ、不安もありま

気あいあいとした雰囲気です。活発に意見が出て、吉村さんを中心に活動が広がっていました。

川崎…学生リポーターが集まり、短い期間でチームワークを築き上げ、企画が走り出し、素晴らしいと感じました。

片桐…学生委員活動の経験は、学生生活に活かされていますか？

吉村…ポスターの作り方や呼びかけ文の工夫、スケジュール管理など、多くのことが身につきました。自分ができることは自分がいようと前向きな姿勢になったと思います。

深堀…その前向きさでフィリピンへ短期留学しましたね。学生委員を1年間務め、次のやりたいことにつながっている姿を見ていて、私たちもうれしいです。

片桐…将来の就職に向けてどんな風に活かそうですか？

吉村…企業研究や業界研究など、就職活動（以下就活）に関わることも学べました。仲間と刺激し合い、「チームで動く」という経験は、社会に出てからも求められることだと思います。

待つではなく、動く。
学生の知りたい気持ちをイベントに

片桐…高桑さんにもお聞きしましょう。キャリア支援グループの学生委員に手を挙げたきっかけを教えてください。

高桑…私は2年生で学生委員になりました。1年次の学生生活を振り返ると、授業

す。就職して働くことはアルバイトとは違います。就活の「最初の一步」をどう踏み出せばいいのかわりたいです。

川崎…すでに低学年を対象とした就職活動準備セミナーを開きましたが、これは「まず話を聞く」場かもしれません。その次の段階が「一歩踏み出す」ことになると思います。

高桑…セミナーに参加しましたが、少人数を対象に開いてほしいなと思いました。今は2年生なので、3・4年生の先輩方と話してみたいです。アドバイスや、その先輩方が今、どんな就活をしているのかわ知りたいと思いました。

片桐…一方通行じゃなくてディスカッションができる、意見交換をできる場。そんなイメージですね。そこで「どうしたらいいのかわ」という問いをきちんと立て、そして答えがみつかる。「そうか。こうすればいいのかわ」という気付きがあるといいですね。

吉村…就活中の段階、就活が終わった段階



をはじめいろいろなことに受動的で「自分には積極性が必要」と思い、学生委員に応募しました。キャリア支援グループの学生委員は幅広い活動ができるのが非常に魅力的に感じました。

片桐…今、どのような企画に取り組んでいるのですか？

高桑…キャリア支援の一環として、インターシップについて深く知るイベントを企画しています。私はまだどんな職業に就きたいのかが決まっておらず不安が大きいので、まずはインターシップについて知りたいと思ったことと、1・2年生を対象としたアンケートで、同様の声が多かったことから、この企画にしました。



など、それぞれのタイミングで先輩方の話を聞けたら、就活をイメージしやすと思います。

深堀…就活が多様化し、「いつ動いたらいいのかわ」と悩む学生が多いと感じています。就活イベントの開催方法を変えることも検討しています。例えば、昼休みに気軽に立ち寄れるような場所で、先輩の話聞けるというスタイルはどうでしょうか。

高桑…いいと思います。大学の4年間はかなり長いと思っていますが、2年生の後半に入り、「就活が近づいてきた」と少し焦ってきました。そのようなイベントを企画していただけたら、焦りが少し解消されそうです。

川崎…先輩の話聞きたいという声は多く、昨年より先輩を招いた講座を増やしています。また、昨年から開始した少人数のワークショップでは、就活を終えた先輩の話聞いたり、不安を抱えている学生同士で話す場を設けているため、ぜひ参加して下さい。



唐突ですが、教育とは何かと尋ねられたら、どのように答えるでしょうか。さしあたりその糸口は、多くの人が経験したことのある学校生活のうちに見出されるかもしれません。例えば、国語や算数といった教科を念頭に置くとすれば、「教育とは体系的な知識を子どもに伝達する営みである」といえそうですし、生活面の指導を念頭に置くとすれば、「教育とは子どもの社会性を育てる営みである」といえそうです。

教育を「学」として考えること

ところで、私たちにとってその存在がごく自然となっている学校は、ほんの数世紀前までは自明のものでありませんでした。一定の年齢に達した子どもたちに等しく教育機会を提供する場としての学校は、18世紀頃より西洋を起点としてその制度的体系を次第に整えてきましたが、人類の長い歴史に照らすとその期間はありませんといえます。近代の発明品である学校は、それ以前の時代には人々の日常生活におのずと組み込まれていた教育の機能を、教室なる空間のうちに導き入れつつ、国民を形成する機関としての地位をわずかな期間で確立してきました。この点において、学校生活から想起されうる教育観は、決して不変的なものではなく、ある特殊な歴史的形態であるといえます。

人が人を形成すること。教育と名指しされるこの営みにはきつと、他者の成長をひたむきに支えようとする願望のみならず、その存在を自らの意のままにしようとする欲望もまた潜んでいることでしょう。善意によつては語りつくしえないこの営み

を前にして、私たちはいかなる言葉を紡ぎ出すことができるでしょうか。そして、そうした言葉を紡ぎ出した先で、教育なるものをいかに捉え直し、そのより良いあり方を模索することができのでしょうか。

教育とは何かという問いと正面から対峙するためには、誰にとつても馴染みのある教育という営みを、個々の経験へと安易に還元してしまうことなく、ときに冷淡ともいえる眼差しのもとで対象化しなければなりません。教育の自明性を問いに付すことを厭わないこうした試みこそ、私の専門である教育学を特徴づけるものであり、その名の通り、教育を「学」として考えることなのです。この「学」において教育は、差し迫った技術的関心から引き抜かれ、私たちの純粋な探究心がそこへと向かう対象として現われてくるはずです。そうした「学」の地平に立脚しながら、人が人を形成することの意味や可能性を問い続けるところに、教育学ならではの魅力があるのだと思います。



国際文理学部 国際教養学科
教育学研究室

塚野 慧星

Keisei Tsukano

九州大学人間環境学府教育システム専攻単位取得退学。修士（教育学）。九州大学人間環境学府教育教育学部門・助教を経て、本学の国際文理学部国際教養学科・講師へと至る。イマヌエル・カントの思想研究を中心とする教育哲学研究に加え、道徳教育や特別活動をはじめとする学校教育実践に関わる研究に従事している。



学内イベント参加で広がる 未来への第一歩

深堀…毎年企業研究セミナーを開いています。社会人になった卒業生の方と交流したり、企業の採用担当の方が志望学生のことというポイントを見ているのかを聞きしたりするイベントです。参加してどんな感想を持ちましたか？

吉村…私は参加当初、将来の目標がはっきりしていませんでした。実際に企業の方の話を聞くと、インターネットなどで調べただけでは分からないことを知ることができました。

目標への一歩を応援 やりたいことは、やってみよう

片桐…「キャリア支援グループの学生委員って面白そうだな」と興味を持つ学生にメッセージをお願いします。

吉村…最初は「失敗したらどうしよう」と心配して挑戦できないことがありました。そう不安に思う方もいるでしょう。でも、職員の方がサポートしてくださるので、やりたいと思ったことは、挑戦してみること

高桑…就職したらずっと同じ仕事をするイメージだったのですが、同じ企業でも、たとえば1年目と2年目で職場・業務内容が違うケースがあることを知り、それが印象的でした。

川崎…キャリアパスが見えてきたという感じですね。社会人になる不安は、多くの人が抱くはずですが、企業の方から直接話を聞くのは、その不安解消につながりますね。

高桑…学内でセミナーを開いていただいたので、企業の採用担当の方にたくさん質問できました。少し疑問に思ったことや卒業生のお話も詳しく聞けました。

吉村…就職したら仕事に打ち込む毎日と想像していたのですが、人事担当の方に「同期入社仲間とこんなイベントに行った」など、仕事の間を離れた社員同士の交流の様子も伺うことができ、不安が消えました。これからも就活関連の学内のイベントに参加していきたいです。



が大切だと思います。

高桑…キャリア支援グループでは、普段の大学生活ではできないことをたくさん体験できます。例えば、このような広報誌に掲載される座談会も初めて経験しました。学生委員になれば、たくさんの学びがあると思います。

片桐…きちんとした目標を持って、それに向かっどう進んでいったらよいのか……。お二人それぞれが自ら計画を立て、一人では難しいなと思ったら誰かに相談する。これは大切なことです。それをきちんとやっていけば必ず目標は達成できるはずです。お二人ともぜひ頑張っていたきたいと思っています。

My life

CORPORATE INTERVIEW

さまざまな業界で活躍をする
人生の先輩たちからの、
学生たちへのメッセージ

勉強ができる環境を当たり前と思わず、
学び、そして視野を広げて世界に
一步を踏み出して欲しい。



profile

イオン九州株式会社
執行役員 熊本・筑後事業部長

たけどみ きょうこ
武富 恭子さん

佐賀県出身。地元の小売業に就職。数回の会社合併を経て、2003年にマックスバリュ九州に入社。経理や総務、営業、人事等を担当してきた。2020年から現在のイオン九州に所属。2021年に執行役員、2022年3月から2025年5月まで上席執行役員を務めた。2025年3月からは熊本・筑後事業部長を務める。2人の子どもを出産後、それぞれ育児休職を経て復職。多様な経験や視点が個人・組織の成長を促すと信じ、後進の育成に向けて社内外で女性のキャリア支援に取り組んでいる。



子どものころを振り返ってみてください。

活発でしたね。農家に生まれたので、小さいころから夕飯の用意を手伝っていました。自分でお弁当を作って、「ピクニックへ行こうよ」と近所の小さい子たちを引き連れてよく出かけていました。

就職した頃のことを教えてください。

大学へ行きなかったのですが、金銭的な面もあって諦めて就職しました。奨学金の制度も知らなくて。自立したくて大阪や名古屋で働こうと探していたら、親に反対されました。就職した「株式会社佐賀主婦の店」は、佐賀にあるスーパーチェーンで、事務職として入社しました。男女雇用機会均等法が成立した3年後の1989年でした。主婦8人が集まって創業した会社でした。その頃は、女性が社長や会長を務



めるなんてあまり例がなく、時代を切り開いた方々を、カッコいいなと思いました。今は35店舗の店舗をまとめる事業部長を務めています。当時は私自身が管理職になりたいとか、将来こんな立場で仕事をするなんて思ってもみませんでした。

入社後どのような日々でしたか？

入社式の時の写真を持って来ました。制服も昭和な感じですね。労働組合の活動もして、その頃から外に目が向くようになりました。いろいろな会社の女性と交流の機会も増えました。デイスコを貸し切って女性だけを集めてパーティーを開いたり、みんなで集まって活動することが好きでしたね。2003年に会社が合併し、イオングループの一員になりました。イオンは従業員教育を重視する企業で、「教育は最大の福祉」という考え方があります。教育こそが従業員の人生を豊かにするという考えで、向上心があれば、いろいろな研修に行かせてもらえます。学生の時よりも就職してからの方がたくさん勉強したかな、と思います。

社会人になってからの方が勉強されたのですか？

前職は2022年から3年間、サステナブル推進責任者でした。「ESG経営」や「GX（グリーン・トランスフォーメーション）のCO₂の排出量抑制」について勉強したし、GXの第一人者の大学教授が講義をする研修にも参加しました。いくつに



入社式後の懇親会にて（本人左端）

なっても勉強って大事。でも若い時にもっとすべきでしょうね。

転職を考えたことはありませんか？

考えました。会社が合併後、佐賀から博多へ勤めることになりました。結婚して子どもが生まれ、通勤に片道1時間半かかるのは、無理だと思って辞めようと思いました。その時です。当時の社長から電話をいただきました。私が会社を辞めようとしてるのを、伝え聞いていたのです。「社長として電話をしているんじゃないんだ。同僚として電話したんだ」とおっしゃったあと、「新しい世界に飛び込んでいいのじゃない、なぜ諦めるんだ。やってみてダメだったらそこで考えたらいいじゃないか」と。夫に相談すると「俺も協力するし、チャレンジしてみれば」と背中を押してもらいました。

たいへんな日々が始まったわけですね。

社長の秘書になりました。通勤は往復3時間。夜10時とか11時に帰宅すると、子どもたちは寝ています。翌朝は5時前に起きて準備し、朝7時に子どもたちを保育園に預ける。19時まで預かってもらい、夫が迎えに行く。子どもたちは毎日12時間、保育園に預けていました。保育園サマサマでしたね。「まずはやってみる」。そこからキャリアにつながっていくのですが、「最初から断らない」姿勢が、私の中に根付いたと思います。

「やってみる」は学びになりますね。

事務職しか知らなかった私が秘書になり、その次に「現場へ行ってみるか」と打診されました。レジ教育をするトレーナーになった時は、レジを打てなかったけれど「やります」って宣言し、1日8時間レジ打ちの練習をして1カ月ぐらいてマスターしました。その後店長になりました。分からないことは、パートさんたちと一緒に作業しながら教えてもらって、その後も色々な職種を経験し、今は熊本市内で単身赴任しています。

単身生活は寂しくありませんか？

なかなか新鮮ですよ。この年齢になって一人で暮らすとは思っていなかったの。毎日作ったごはんを写真に撮って夫にLINEで送っています。夫からも「今日はこ



扉の先に未来がある

社会で羽ばたく なでしこたち

#12



九州産業大学 地域共創学部 助教

藤野 夏海さん

2015 年度 国際文理学部 国際教養学科卒業
2017 年度 人文社会科学部 社会科学専攻博士前期課程修了
2021 年度 同専攻博士後期課程 博士号（社会科学）取得

新学部での学生生活

福岡女子大学の隣にあった香椎幼稚園に通っていたので、幼いころから大学のグラウンドや売店を訪れていました。高校は英語科を選択していたため、大学でも引き続き英語を学びたいと考えていたこと、実家から通える距離にあったことから、福岡女子大学に進路を決めました。また、2011年の学部再編や1年次全寮制などの改革がどれも魅力的に感じ、最終的な決め手となりました。新学部での第1期生とな

れたことが嬉しかったです。大学1年次終了後、休学してカナダのバンクーバーへ留学しました。語学学校で英語を集中的に学び、英語力が飛躍的に伸びたと感じたのですが、私にとつての英語は「手段」であることに気が付きました。ゼミでの活動では、福岡アイランドシティの暮らしやすきに関する調査に関わり、経済学という学問や大学での研究活動が、実践的に生かされている現場を目の当たりにし、研究者という将来の道を意識するようになりました。

社会人としてのスタートと学び

現在九州産業大学では、主に経済系の専門科目の講義やゼミ、研究、大学や学部内での委員といった仕事をしています。加えて他大学での非常勤講師の仕事もあります。タイムマネジメントが難しく、未だに苦戦しています。が、人懐こい学生さんが多く、その学生さん達から元気をもらっています。苦労したことは、大学院卒で社会に出るのが遅れたため、同じ年代の他の人と比べて社会人としての常識が伴っていないかったことです。けれども英語の勉強はやっていて良かったと思います。得られる一次情報の量が増え、論文を英語で読んだり書いたりするのにあまり苦労せずに済んでいます。一方で、講義をもっと意欲的に聴いていればよかったと後悔しています。改めて自分で学ぼうとすると莫大な時間と費用がかかり、学生時代にはそのことに気付かせませんでした。

福岡女子大学は地域に根差した大学という在学中からのイメージは変わらず、国際交流が盛んだというイメージが浸透してきているように思います。多くの卒業生が大事に守られてきた福岡女子大学のブランドイメージを、これからも大切にしながら続けて欲しいです。

福女大生へのメッセージ

大学生の「今」しか挑戦できないことがたくさんあります。躊躇せず、いろいろな世界に飛び込んでみてください。

友達、先生方との出会いを大切に、福岡女子大学での4年間で多い時間となることを願っています！

「学生時代」4年時福女大にて（本人右端）



れ食べた」と画像が送られてきて。お互いの生存確認みたいですね。昨夜は、佐賀の自宅に10日ぶりに帰り、今日は佐賀から来ました。佐賀と熊本の二つを拠点にしています。

いつ頃、将来の明確な目標を決めましたか？

最初の転機は会社の合併でした。そこからは色んな経験をさせてもらって、教育担当の部長を5年間務めました。新入社員が成長していくのが見え、それが嬉しくて。いつも「あれもやりたい。これもやりたい」と考えてきました。部長になったたでることが増えるわけです。役員になったたでることがさらに増えていきます。そうなったら立場にふさわしい人材にならなきゃと思って努力するわけです。立場が上がるにつれて「仕事ってこんなに面白いんだな」と思うようになりました。

プライベートと仕事の両立で、意識することは何でしょうか？

「頼ること」「任せること」これが大切だと思います。例えば、お店のスタッフは誰もが土曜日、日曜日に休みを取らないと思うでしょう。でも、店長の私が毎週土、日曜日に休んでいたら、パートさんたちは「店長だけ、休んで」と快くは思わないでしょう。2人の子どものクラブ活動の送迎やサポート役が週末に回ってきたら、その時はパートさんたちに「私は月に2回、日曜日に当番をやらな」といけないの。だから

ら日曜日は月に2回休みみたいな」と伝えていました。自分の状況をきちんと伝えたら、パートさんたちも理解してくれます。ある程度は任せ、頼る。そして「最終的に責任は私が取る」という覚悟も必要です。少々のことは目をつぶる覚悟で、やってきました。

何か好きな言葉はありますか。

「まずはやってみる」そして「チャンスを生かすも殺すも、それは自分次第」でしょう。研修のチャンスは平等にあります。それに気付くか、気付かないか、チャンスをつかむか、つかまないかは自分次第です。私が就職したころは「男性は総合職、女性是一般職」という時代。疑問もありませんでした。ですが今は若い人たちにこう言っています。「昇格試験のチャンスは自分のものにするかしないかは、あなたが決めることよ。昇格したら、お給料も上がるし、キャリアも上がっていくのよ」と。勉強ができる機会も同じです。「どんな研修へ行こうよ」という感じでやっていました。

勉強していくことのモチベーションの保ち方ありましたか？

研修を受け、また勉強し、昇格できたら「もっと違う景色が見えるのかな」と思ってきました。まずは会う人が変わる。昨日は熊本県知事にお会いしました。そうするとその人の知識や知見を感じ取れるわけです。本当に世界が変わっていくって

か、見える景色が変わり、知らず知らずにも自分も変わっていくのです。いろんな方と出会う中で、どんどん成長していける

これからの夢を教えてください。

2026年3月で55歳になります。私が今、持っているバトンを誰に渡そうかな、と考えます。私の会社には女性の執行役員は3人いますが、その上席は社外取締役女性に2人です。次の世代のリーダーがまだ育っていません。取締役は男女で同じくらいの比率が望ましいと考えます。

最後に大学生に向けてメッセージをお願いします。

留学を始めいろいろなチャンスがあるのであれば、どんな外に目を向けて欲しいですね。私が今就職した18歳だったら「あなた、そんなにちっちゃな世界じゃダメよ。もっと外を見なさいよ」と自分に言いますね。そして、今しかできないことを一生懸命やる――。学生として勉強ができる環境にあるのだしたら、それを当たり前と思わず、学び、そして視野を広げて世界に一步を踏み出して欲しいですね。採用面接で「今日、ウチの会社の内定が出たらどうしますか？」と尋ね、「もう就活をやめます」と答える学生さんがいると、私はこうアドバイスします。「もっといろんな企業を見た方がいいですよ」「もったいないよ」と。

学生インタビュー感想

「チャンスを生かすも殺すも自分次第」「頼ることや自己開示の大切さ」など、印象に残る言葉ばかりで、仕事だけでなく人間関係にも活かしたいと思いました。できなければやめてもいい、新しい方法を探せばいい。そう思うと、挑戦のハードルが少し下がった気がします。多様な仕事にノーマルな挑戦されてきた姿に憧れを感じると同時に、私達も後悔ないようにチャンスをつかんでいこうと前向きな気持ちになりました。視野を広げるためにも、もっといろいろなことに挑戦していきたいです。



国際教養学科3年 福岡県立芦屋高校出身 曾我 凜香さん
国際教養学科2年 東海大学付属福岡高校出身 飯田 三智さん

6

June

2025.6.6～

企画展示「21世紀の100冊」

図書館1階BBCコーナーそばにて行っています。米国の新聞 The New York Times、英国の新聞 The Guardian に掲載された「The 100 Best Books of the 21st Century (21世紀最高の本100冊)」のうち、本学図書館が所蔵するものを紹介しています。21世紀が始まって、早くも四半世紀が過ぎようとしています。「2025年」という節目の年に、21世紀を代表する100冊をぜひ手にとってお読みください。



2025.6.6

食品表示特別セミナー

一般社団法人食品表示検定協会と一番食品株式会社（本社・飯塚市）より講師をお招きし、昨年に続き2回目となる食品表示特別セミナーを開催しました。食品表示の知識が毎日の暮らしに役立つだけでなく、資格取得がキャリア形成に有効であることを学びました。セミナー終了後には、食品表示検定の認定テキストを手に取り受験意欲を示す学生の姿や、一番食品が携わった製品群を囲み、講師らと活発に意見交換を行う様子が見られました。



2025.6.16-6.22

大阪・関西万博「対馬ウィーク」

大阪・関西万博のパビリオン「ブルーオーシャン・ドーム」にて、本学が連携協定を結んでいる長崎県対馬市が、対馬の海洋問題とその解決に向けた取り組みを発信する『対馬ウィーク』を行いました。私も対馬市のスタッフとして本イベントに参加し、多くの来場者に対し、対馬の海ごみや磯焼けの深刻な現状や、それらへの取り組みについて紹介し、これらは対馬だけでなく、日本や世界が連携して取り組むべき課題であることを伝えました。（国際教養学科4年 岡本 遥香さん／福岡・筑紫女学園高校出身）



2025.5.17-5.18

English Village

「English Village」は本学の留学生と日本人学生が「共に英語で授業を受け、英語のみで異文化交流を行う1泊2日の合宿型国際交流活動です。グローバルアリーナ（宗像市）で開いた合宿には、在学生26名と交換留学生22名の計48名が参加しました。初めは戸惑う様子も見られましたが、留学生に促され、次第に積極的に英語で話すようになっていきました。参加者の多くが、英会話力向上の手応えを感じていたようです。



2025.5.19

トータルケア・システム株式会社と産学連携協定を締結

本学は、紙おむつリサイクルの革新的プロセス実用化を目指してトータルケア・システム株式会社（本社・福岡市博多区）と産学連携協定を締結しました。従来、使用済紙おむつのリサイクルでは、化学薬品を用いて構成成分の分離が行われていましたが、今回の新規プロセスでは、化学薬品を用いずに分離を可能とするものです。関係機関とも連携して循環型社会の実現に貢献すべく、今後も研究開発に取り組んで参ります。



2025.5.30

ジョージア大学と本学の学生交流

交流協定校である米国ジョージア大学から21名の学生が国際フードスタディセンターを訪問し、本学学生と食文化に関する交流を行いました。日本の食文化に関する講義を聴講後、



本学学生とのグループワークでは、英語で日米の食文化比較をしたり、小豆を箸で運ぶゲームなどを和気あいあいと楽しみました。また、佐賀県基山町の鶴製茶による煎茶の淹れ方の実演後には、冷茶の振る舞いがあり、参加した日米の学生たちが美味しさに感動する様子が見られました。

2025.4.27

インドネシアの現代史入門
歴史から見る政治経済の今

久留米市市民活動センターにて国際教養学科の小西鉄准教授が、東南アジアの新興大国の現代史をわかりやすく解説する一般向けの講演会を行いました。本講演会は九州インドネシア文化交流「ハラパンの会」の主催、久留米観光コンベンション国際交流会の後援による開催です。久留米市の地域住民に加え、インドネシアからもリモートでの参加・質疑があり、地域での国際交流の場となりました。



5

May

2025.5.9

プロ直伝！トレンドの韓国メイクを学ぶ

本学にて、韓国の文化を学ぶ講座「2025 世宗文化アカデミー」が開催されました。この講座は、日本の学生に韓国の文化に直接触れてもらおうと開催されているものです。講座には約25名の学生が参加し、韓国で活躍するメイクアップアーティストからトレンドの韓国メイクや自分に似合うパーソナルカラーなどを教わりました。最新の韓国の美容事情やメイクの仕方など直接指導してもらえる体験型学習で、韓国文化への理解を深めました。



2025.5.13-5.14

海外留学相談会

相談会では、海外協定校への交換留学を目指す学生たちが、留学先での学業や生活について、交換留学経験者に座談会形式で直接話を聞くことができます。約50名の学生が参加し、科目履修からその地域の文化や習慣まで、熱心に質問をしている姿が印象的でした。この相談会は、2017年から年に2回実施しており、在学生から好評を得ています。



3

March

2025.3.10-3.17

アジア高校生招へいプログラム

本学の交流協定校トリアムウドムスクサ高校（タイ・バンコク）とハノイ国家大学外国語大学附属外国語英才高校（ベトナム）の女子生徒合わせて15名が来校しました。1週間の滞在中は授業体験のほか、本学学生と一緒に福岡タワーや太宰府天満宮を見学し、福岡の文化にも触れました。15名は皆、日本留学を希望しています。バンコクとハノイは、いずれも福岡県の姉妹都市です。



2025.3.22

春のキャンパス見学 & 相談会

毎年3月に、なでしこ寮やキャンパスのツアー、個別相談を中心とした「キャンパス見学 & 相談会」を行っています。今回は、県内外から高校生や保護者など約350名が参加しました。学生ピクニックと題した在学生による相談企画では、「先輩にたくさん質問できてよかった」など嬉しい声が寄せられました。



4

April

2025.4.22 / 4.24

交換留学派遣学生の成果報告会

半年から1年間の交換留学を終えて帰国した13名の学生の成果報告会をオンラインで開催しました。学生たちは、それぞれが留学先での学習に用いた言語（英語・フランス語・韓国語）を使って、履修科目や留学中の経験、留学後の目標等について報告しました。また、各自の留学経験を元にした在学生へのアドバイスもあり、これから交換留学を目指す学生たちのモチベーションが高まる貴重な機会となりました。



1

January

2025.1.24

日本語教員養成プログラム
開設10周年オンラインイベント

本学副専攻プログラムの一つである「日本語教員養成」の開設10周年を記念し、「プログラム修了生の今」と題したオンラインイベントを開催しました。イベントには、国内外の日本語学校や、国際交流協会、日本語教育関連の出版社など、様々な日本語教育現場で活躍する修了生が登壇し、今につながる学生時代の取り組み、そして、現在の仕事のやりがいや苦労、これからの展望について語ってくれました。



2

February

2025.2.1

女性トップリーダー育成研修

2024年11月の宿泊研修に続くフォローアップ研修です。様々な業種・職種から集まった第9期受講生が自身のビジョンを発表する決意表明を行い、互いに大きな刺激を受ける時間となりました。午後からは、本学社会人研修の受講生・修了生など計64名の参加を得て、「トップリーダーソサエティ・シンポジウム」を開催しました。「私が女性リーダーたちから学んだこと」と題する基調講演に続くパネルディスカッションにおいてキャリアアップ等に関する活発な意見交換が行われました。



2025.2.10/2.12-2.13

福女大生のための3days
企業研究セミナー

学部1～3年生の計163名が参加し、企業研究セミナーを実施しました。3日間で31社にご協力いただき、人事担当者や企業で働く本学OGから、様々な業界・企業についてのリアルなお話を伺いました。また、それぞれの企業での「働き方」（専門性を磨く、地元で働く、グローバルに働く等）についても理解を深め、自身の描くキャリアプランと重ね合わせながら、学生が主体的に将来を考える機会となりました。



成果報告

Results report

米国スタンフォード大学の教育プログラムで最優秀賞・健闘賞を受賞

本学の学生5名が、九州産業大学がスタンフォード大学 SPICE と連携して実施する教育プログラム「Stanford e-KyuSan-U (GLP III A)」に科目等履修生として参加しました。9月16日に開催された閉講式では、本学の国際教養学科3年、平野愛さん（福岡高校出身）が「最優秀賞」に、国際教養学科2年、太田彩絢さん（修猷館高校出身）が「健闘賞」に選ばれました。両名の積極的な姿勢と努力が評価された結果であり、今後の活躍が期待されます。



平野 愛さん

太田 彩絢さん

「THE 日本大学ランキング 2025」 全国女子大で2位

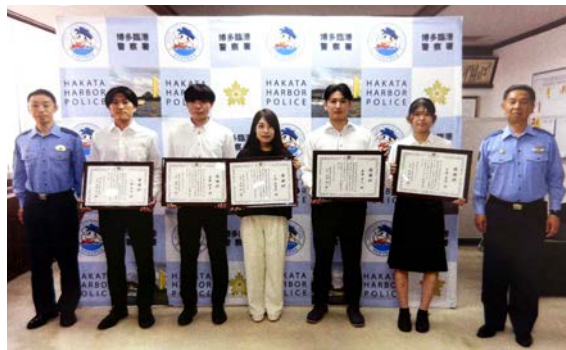
Japan University Rankings 2025
Powered by THE

2025年4月3日に「THE 日本大学ランキング 2025」が発表され、本学は総合48位、全国的女子大学の中では2位となりました。分野別では、本学が力を入れている「国際性」で全国9位、国公立大学の中で2位と高い評価を受けました。このランキングは、英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）とベネッセグループが大学の教育改革やグローバル化の推進を目的に公表するもので、今回は257大学がランキング対象となりました。

水難救助に貢献

福岡県警察より感謝状を授与

2025年6月26日、国際教養学科3年の馬渡菜央さん（福岡中央高校出身）が、福岡県警博多臨港署にて水難救助に貢献したとして感謝状を授与されました。馬渡さんは5月31日未明、博多ふ頭にて溺れている少年を、アルバイト先の店長や仲間とともに発見し、119番に通報。近くにあったブルーシートを海に投げ込み、少年がつかんだシートを持ち続けました。少年は救急隊員により無事救助されました。「偶然居合わせただけでしたが、誰かの命を救うことができた」と安堵の笑顔を浮かべていました。



（右から2番目）馬渡 菜央さん

福岡フランス学院

スピーチコンテスト2位入賞

「Voyager（旅をするということ）」をテーマに、自分の旅行に対する思いをフランス語で伝える難しさと喜びを実感しました。当日は大変緊張しましたが、準優勝という結果をいただくことができ、大きな達成感を得ました。9月からのフランスへの交換留学に向けて、今後も学びを深め、自分自身の成長につなげていきたいです。コンクールに向けてご指導くださった先生方に、心より感謝申し上げます。

（国際教養学科3年 猪又 美帆さん / 大分・別府鶴見丘高校出身）



（右上）スピーチをする猪又 美帆さん

人事消息

Personnel column

[教員]			
新任	食・健康学科	助手	浅田 浩子
	国際フードスタディセンター	助手	西川 優
	国際教養学科	助教	穴井 茜
昇任	国際教養学科	教授	橋本 直幸
		教授	渡邊 俊
[職員]			
新任	副理事長	飯田 和郎	2025.4.1
	常務理事兼事務局長	柳瀬 留美	
	経営管理センター	センター長	大堤 智子

[職員]			
昇任	アドミッションセンター	副センター長	山本 凌
	経営管理センター	主査	赤阪 美和子
	教務企画センター	主査	安永 智美
	国際化推進センター	主査	村田 彩
	国際フードスタディセンター	主査	平川 春美
	女性リーダーシップセンター	主査	大内 素智子
	教務企画センター	主査	何 艶
		主任	深堀 麻衣
2025.4.1			

2025.4.1～2025.8.31

7

July

2025.7.3

2029年度からのトランスジェンダー学生受け入れを公表

本学では、多様な女性のあり方を尊重するため、2029年度入学生から、学部及び研究科の出願資格にある「女子」に、トランスジェンダー女性※を含むことを決定しました。これに合わせ、7月3日にホームページ上で学長メッセージを公表しました。※身体的性に基づく戸籍上の性別は男性であるが、女性としてのジェンダーアイデンティティを持つ人。

2025.7.5

なでしこフェスティバル

「国際学友寮なでしこ」で、寮生主催の「なでしこフェスティバル」を開催しました。14のフロアがそれぞれに、寮生の出身国や地域にちなんだ飲食や体験ブースを企画し、全員が役割を担って準備を進めました。当日は、ドイツやアジアのスイーツ、世界のゲームやお化け屋敷などが並び、どのブースも大盛況で、文化の違いを楽しむ一日となりました。また、近隣的女子高校生を招待し、なでしこ寮の魅力を体感してもらうこともできました。



2025.7.12

ランゲージ・カフェ主催 “各国料理クッキング&交流”

開催希望の声が常にあった料理イベントを実施しました。教職員含め30名近くが集まり、“from scratch”（ゼロから）で作るとすることで、キッチンが二つある福岡市東区のモデルルームを借りて開催しました。トッパギ、タパン&フムス、春巻など、各カフェからの国際色豊かな料理が並びました。買い出しから片付けまで協力して進める中で、学年を超えた和やかな交流場面が多く見られるランゲージ・カフェらしいイベントとなりました。



6

June

2025.6.19

新学科（設置構想中）の特設サイト開設

本学は2027年4月に「環境理科学科」を改組し、GX & DX人材を育成する2つの新学科「環境理工学科（仮称）」「生活情報理工学科（仮称）」の設置を予定しています。2025年6月には新学科に関する特設サイトを公開し、学科の特色やカリキュラム、高校生向けQ&Aなどを紹介しています。今後も新学科に係るさまざまな情報を随時発信していきますので、ぜひご覧ください。



2025.6.25

自主制作ドキュメンタリービデオ「Legacy - 宗像の女性たち」

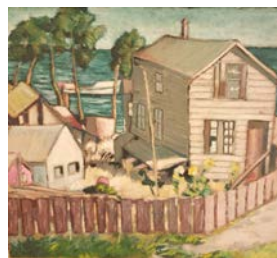
宗像市の令和5年度「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」に、言語教育センターのガラチャー講師提案のプロジェクトが採決され、学生有志5名が宗像市で活躍した女性たちにインタビューしました。そのドキュメンタリービデオ「Legacy - 宗像の女性たち」の上映・成果報告会を、ガラチャー講師と学生代表1名が英語と日本語で行い、新聞2紙にて報道されました。



2025.6.27-9.25

コレクション展「許山孝一 カリフォルニアの丘」

本学美術館では、収蔵している福岡出身の許山孝一氏（1900-1984）の、1920年代から晩年までの絵画作品を、初のコレクション展として取り上げました。展覧会では、20歳で渡米、フレスコ画で有名なディエゴ・リベラに師事し、激動の時代を半世紀以上アメリカで過ごした画家による、油彩、水彩、テキスタイルデザインほか、当時の貴重な資料を含め約50点を展示しました。



2025.6.21-6.22

韓国仁荷大学校との交流会

木村貴ゼミでは、仁荷大学校の学生8名と交流会を持ちました。初日は本学にて動画「体で表現する日韓関係」を作成し、新しい日韓関係のあり方について、学生の視点から一緒に意見交換しました。翌日には国際学会「日韓国交正常化60周年と韓国新政権下の日韓関係の展望」に一緒に参加しました。2日間、韓国語だけで交流を図り、韓国語能力を実践に活かす有意義な機会を持つことができました。秋には仁荷大学校を訪問する予定です。



2025.6.27

高等学校進路指導担当者向け大学概要説明会

高校の先生方を対象にした説明会を開催しました。県内外の34校の先生方が参加し、昨年度の入試結果、今年度入試概要、各学科の説明に加え、学生による活動成果の発表を行いました。説明会の後半では、キャンパスツアーや学科等の個別相談の時間を設けました。参加者からは「福岡女子大学の魅力が伝わってくる説明会だった」との感想をいただきました。

